

令和 7 年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：静岡の未来を拓く会

1 事業のタイトル

きみの居場所プロジェクト

2 背景・現状 (事実に基づきデータなどを用い、現在の静岡市にどのような問題があるのかを明確に記載してください。)

近年、地域における子ども間の関係が希薄化し、自然発生的に異年齢集団で遊ぶ子どもの姿を目にしなくなってきた。また、地域の子ども会なども子ども減少や維持運営の難しさから廃止されるケースが急増している。地域の異年齢集団が果たしてきた役割は少なくない。大人よりも親近感を持って共感的に話ができ、少し年齢が上の子どもに気軽に相談できる関係性、年下の子どもの行動規範となるロールモデル的存在などがあげられる。近年、このような地域の子ども同士で形成されてきた役割・機能の低下が、現代の子どもたちの孤立感や不安感の一因につながっている。

2022年 9 月の小学生白書の中で、何らかの悩み事があると回答した割合は 42.6%であった。「子どもたちは不安や悩みがあるときに、誰に相談をするか」の問いに対して 10.3%の子どもが相談しないと回答している。このような調査結果から、悩み事がある小学生は半数近くおり、悩み事を相談できていないケースも少なくないことが伺われる。

さらに、2024年 11 月に発表された静岡市の不登校調査結果では、小学生が 701 人(前年度比 34%増)、中学生は 1,247 人(前年度比 10%増)となり、前年に比べて大きく増加している。小中学校における不登校の人数合計は、1,948 人、長期欠席者の合計は、2,300 人弱となっている。総児童生徒数からの割合では、小学校は 1.8%で全国平均とほぼ同じで、中学校 7.6%と全国平均より上回っている。

このような現状を打開していくには、従来型の支援だけでは十分とは言えず、大人による支援と言う定型的なあり方を越えた方策が必要と思われる。その一つとして、子どもにとって親近感を感じることができる青少年(高校生)が主体的に、子ども自身が心を開示できる「こころの居場所」を創り出していくことは、子どもたちの心の安心に止まらず、近い将来、社会を担う青少年(高校生)たちにとってもかけがえのない経験になるものと考えられる。

3 目指す状態・成果 (現状に対して、どのような状態になっていることが社会の理想的な姿か、明確に記載してください。)

学校生活に不安や悩みを抱えている子どもに対して、学校を始め、行政による支援、関係機関などによる様々な支援が行われている。現在、学校においては、相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどによる対応がとられているが、不登校の子どもの数は増加の一途をたどり、現行の支援だけでは課題解決を図ることは難しい。不登校の要因は様々であるが、家庭や学校など身近なところにあるままの自分を開示できる「こころの居場所」があるによって、不登校や自殺に追い込まれていく子どもを減らしていくことができるものと思われる。家族や地域・学校でのコミュニケーション機能の低下が言われる今日、新たな「こころの居場所づくり」として、年齢の近い高校生が子どもの目線で遊びを通して共感的に「話をする」と、「関わる」ことによって「こころの居場所」が得られ、救われる子どもたちは少なくないと考えられる。遊び

を通して高校生がやってみせることで、子どもが楽しさを感じ、また共に体験することで、世代間を越えた交流ができるよさがある。

加えて、高校生期に子どもたちに関わる経験をもつことにより、高校生自身の地域の一員として社会性を伸ばし、将来の親として子どもへの接し方を感じたり、子どもに関わる職業を志したりすることも期待できる。

4 社会的課題（「2 背景・現状」と「3 目指す状態・成果」を比較し、目指す状態に至らない理由や問題点を明確に記載してください。）

教職員、相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが、不安や悩みをもつ子どもに専門性をもって対応することは重要であるが、そこには脱しがたいヒエラルキーがある。このことが不登校等の課題解決に至らない要因の一つになっている。今、子どもたちが真に求めているのは「教える人」、「導く人」だけでなく、「共にある人」である。地域の子供会など異年齢の子ども間関係がなくなった今、親和的で共感的な親しみやすい居場所の再創出が必要である。

団体名：静岡の未来を拓く会

5 事業の概要（「4 社会的課題」で掲げた課題の解決をするために、どのような事業を提案するのか及びその成果指標について、「3 目指す状態・成果」の内容を踏まえて記載してください。）

小学生にとって話しやすい、親しみやすい人材は高校生こそまさにうってつけである。高校生自身が、小学生であったころから数年しか経っていないので、小学生の気持ちや思いに寄り添うことができる。

そこで、高校生が主体になり活動を展開していく事業、「きみの居場所プロジェクト～きみの話し相手になり隊～」を提案する。

学校生活に不安感を抱いている子どもは少なくない。これは2の現状からもはっきりしている。こうした不安感を抱いている子どもたちを他の子どもたちと分けずに、高校生が遊びや会話をとおして関わっていく。子どもたちが親しみやすさを感じる高校生だからもてる目線を大切にして、子どもがささいなことでも気軽に話せる「こころの居場所」を創っていく事業を展開する。

成果指標としては、子どもや教職員、指導員へのアンケートを4段階評価として振り返り、事業の達成度や課題点の洗い出しにつなげていく。

6 市と協働をする理由（団体独自で行うのではなく、市と協働することが必要な理由や、市と協働することによって得られる効果等を記載してください。）

(1)「放課後子ども教室」での活動

現行の「放課後子ども教室」での活動展開が本事業のスタートアップとして最適な場であるため、主管である教育総務課の許諾を得る必要があり、市立小学校の協力が必要であるため

(2)「ふれあいイベント」の募集・事業の広報

- ・市全体に「ふれあいイベント」の参加者やボランティアスタッフを募集するため
- ・事業について広く市民に広報するため、

(3)参加者やボランティアスタッフの保険

「ふれあいイベント」の参加者やボランティアスタッフの保険費用を捻出するため

(4) 公益性・持続性を高めるため

市(市立小学校、市立高校、教育委員会、自治市民推進課)と協働することにより、特定地域の活動から市全体取組に発展させ、広く高校生ボランティアスタッフを募り持続可能な事業とし、より多くの子どもたちを支えるため

7 団体の担う役割

(1) 本事業の企画・運営、連絡・調整

本会の本事業担当チームを設置し事業の企画・運営に当たると共に、行政・学校との連絡・調整を行う。

(2) 「放課後子ども教室」や「ふれあいイベント」での活動に関する指導・管理

協力校での「放課後子ども教室」や「ふれあいイベント」にボランティアスタッフとして参加するだけでなく、教職経験のあるスタッフを派遣し、指導・管理を行う。

(3) 募集・広報

参加者やボランティアスタッフの募集、事業の広報のためのチラシやポスターを作成する。

(4) 公益性・持続性を高める

本事業の公益性・持続性を高めるため、本会の月例研究会・市民フォーラムで進捗状況や成果と課題などを報告する。

8 静岡市に担って欲しい役割

本会が企画、運営する事業「きみの居場所プロジェクト」の推進のため、以下のことを担っていただきたい。

(1) 常時活動

- ① 市内小学校の「放課後子ども教室」への参加許可(教育総務課)
- ② 「放課後子ども教室」での指導員との情報共有(教育総務課)
- ③ 「放課後子ども教室」へ参加する子どもの保護者の許諾(協力校)

(2) ふれあいイベント活動(1月実施予定)

- ① 「広報しずおか」でのイベントの参加者募集(自治市民推進課)
- ② 高校生イベントスタッフの募集、市立高校2校へ(教育総務課)
- ③ イベント参加の児童・高校生ボランティアスタッフの保険費用

(3) 両活動に係るチラシ・ポスター等の広報費用

今までにない高校生によるプロジェクトを共創していく一翼を担っていただきたい。

9 事業計画・実施スケジュール (協働パイロット事業で実施する事業のスケジュールを記載してください。2年間にわたる事業を検討している団体は、2年目の計画についても記載してください。)

1年目	6月下旬～7月上旬	月イベントに向けたプレ企画の企画・実施
	7月	活動実施① 月イベントの計画策定
	8月	活動状況の報告(月例研究会) ふれあいイベントの実施計画策定
	9月	活動実施②
	10月	活動実施③ ふれあいイベントの参加者募集
	11月	活動実施④ ふれあいイベントの準備
	12月	活動実施⑤ ふれあいイベントの準備
	1月	ふれあいイベントの実施
	2月	2025年度の総括
	3月	次年度の活動計画
2年目	4月	事業計画策定、ボランティアスタッフ募集、協力校の選定・依頼、高校生在籍校への説明
	5月～2月	活動実施

団体名：静岡の未来を拓く会

10 協働パイロット事業終了後の展望・今後の活動展開（協働パイロット事業終了後にどのように事業展開をしていく予定か記載してください。）

本会としては、本事業で得られた放課後子ども教室での成果を広め、担当各課との協働を必要に応じて継続し、より多くの子どもたちの心の安定に努めていきたい。1年限りの事業で終わらず、他の学校・地域へも広めていく事業展開をめざしていきたい。参加した高校生には、「子どもと関わることのすばらしさ」「他者の心の支えになれた」など実感してもらい、できる限り事業を継続していきたい。また、将来的には、この活動をととして、高校生が教育現場で子どもと関わっていきたいという教職員の人材の発掘・育成にもつながっていくことも期待している。さらに、高校生が学校へのボランティアスタッフに加わることで、地域の人材不足に対応できるよう地域の活性化につながってほしい。

11 実施体制及び主要スタッフの経歴

- 1 寺谷 正博(共同代表)
元市立小学校校長 元静岡研会長 元全難言協理事 元全特連理事
- 2 山下 由修(共同代表)
元市立小中学校校長 一般社団法人シヅクリ代表
- 3 長尾 剛史(副代表・プロジェクト4「きみの居場所プロジェクト」リーダー)
元市立中学校校長
- 4 村田 敦(総務部長)
元市立小学校校長
- 5 松村 隆年(総務部長 プロジェクト2「主体的な学び」リーダー)
元市立小学校校長、元私立大学特任教授
- 6 石原 弘統(会計部長)
不動産関係 元PTA 役員
- 7 八木 哲史(広報部長)
不動産 元会社員
- 8 山竹 恭子(総務部長補佐)
元市立小中学校教諭特別支援教育担当 医療機関従事者
- 9 赤田 陽子(総務部長補佐・研修会リーダー)
現市立小学校校長
- 10 稲永 光司(事務総務)
現市立小学校教頭
- 11 青木 教美(プロジェクト1「共生教育の構築」リーダー)
現市立小学校教員
- 12 鈴木 団(プロジェクト3「不登校」リーダー)
現市立小学校教頭
- 13 鈴木 巳千代(プロジェクト1「共生教育の構築」サブリーダー)

保護者(障害のある子どもの保護者)

14 松永 徹(プロジェクト3「不登校」サブリーダー)

現市立小学校教員

15 横井 利夫(プロジェクト5「メタバース」リーダー)

元市立中学校校長

16 宮津 香梨(プロジェクト4「きみの居場所プロジェクト」サブリーダー)

現公立高校3年生

団体名：静岡の未来を拓く会

12 その他アピールしたいこと (団体の専門性や先駆性、創造性など、特に団体としてアピールしたいことを記載してください。)

本会は、「子どもの未来は、私たちの未来 子どもの未来は、静岡の未来」を合言葉に、2022年7月に結成した市民団体である。ビジョンとしては、静岡の教育について多様な人々の絆を通して、諸課題の解決に主体的に取り組む市民団体を目指している。会員は、退職校長や現職校長、教員、保護者、地域住民、医師など様々な人々で構成されている。完全非営利団体で会員相互が主体的に知恵を出し合い、主体的に活動を展開している。

発足時の会員は11名であったが、活動を地道に続けてきた結果、2023年度には、65名、2年目(2024年度)には79名と着実に絆の輪が広がっている。

2024年度に実施した本会の事業の概要は以下のとおりである。

1 3つのプロジェクト活動の成果(参加者の感想等から)

(1)プロジェクト1「共生社会の構築」

①誰でも共に学ぶ学校を目指して「本音で語ろう! 保護者の思い、教師の思い」の実施

・障害のある子どもも通常学級の子どものも共に成長する共生教育の良さ、可能性を知ることができた。

・多くの人が関わり、保護者の願いの実現に向けて協働する連携の必要性とそのモデルが示されたことがわかった。

②映画上映会「みんなの学校」

・こんな学校があるんだ、こんな校長先生がいるんだ、自分たちの学校は自分たちで作る、子どもたちも先生方も本当に温かい、安心できる安全な学校ってこういうことだね。希望が湧きました。勇気が湧きました。大空小学校の精神を静岡でも実現させたい。

(2)プロジェクト2「主体的な学び」

①野外保育、小学校、中学校参観

・主体的な学びの実現には「みんなでやりたい」「いっしょに解決したい」と思える課題や環境が必要になる。

・教師が子どもと共に学ぼうと主体的になることで、子どもたちが主体的に学ぶようになる。

②主体的な学び研修会「子どものやりたいを生むために、今私たちができること」の実施

・主体性と自主性の違いへの気づき。

・子どもの安心基地の大切さを学校や家庭に広げる。

・子どもの「やりたい!」を生むために必要な取組を追究していく。

(3)プロジェクト3「不登校」

①「不登校について語る会」の実施

- ・不登校をネガティブにとらえない。
- ・多様な学びの場があってもよい。
- ・不登校を受容できる社会、理解がある社会であるか。

(4) 市民フォーラムから(市長参加)グランシップ交流ホールにて実施

「きみの居場所プロジェクト」提案(高校生かりんさんの提案)

・かりんさんの提案に強い魅力を感じました。子どもたちの近未来である高校生と話したり遊んだりすることを求めている小中学生は多くいるのではないかと思います。また幼いこと関わることで、保育や教職を志す高校生が増えるのではないかと思います。そうすることで教師不足による危機的な学校現場の課題解決への糸口になる可能性もあると思いました。ぜひ協力できたらと思います。

本会は以のような活動を展開しており、高い意識と専門性のある会員を有する完全ボランティアの他に類を見ない市民団体であると自負している。